

アンチ・ドーピング

責 任 者・コーディネーター		医療薬科学講座創剤学分野 杉山 育美 准教授	
担当講座・学科(分野)		医療薬科学講座創剤学分野	
対象学年	4	区分・時間数 (1コマ2時間換算)	講義 12時間(6コマ)
期 間	前期		
単 位 数	0.5単位		

・学習方針（講義概要等）

スポーツは、トップアスリートだけでなく、娯楽として、また、健康維持や疾病予防の観点から幅広い年代で親しまれている。しかしながら、よい記録を追及するあまりに、くすりを摂取するドーピングが問題となっている。これに対するアンチ・ドーピングの活動は世界的に展開されており、様々な競技会で検査が行われている。しかしながら、スポーツ選手や一般の愛好家はくすりに関する知識が乏しく、特に本邦においては日常的に服用する医薬品への理解不足による意図しないドーピング違反が起きているのも現状である。そこで、くすりの専門家である薬剤師が正確な情報をスポーツ選手に与える必要があり、日本アンチ・ドーピング機構は、薬剤師を対象に公認スポーツファーマシストを認定している。本講義では、薬剤師を目指す薬学部生の立場からスポーツと薬の関わりや知識を学び考える。

・教育成果（アウトカム）

スポーツ選手の医薬品に対する認識と現状、スポーツ薬理学への理解、ドーピングコントロールの現場を知ること薬学生の立場からスポーツファーマシストに対する理解を深め、臨床現場にとどまらない薬剤師の役割が認識できる。
(ディプロマ・ポリシー：2,3,4,6)

・到達目標（SBO）

1. スポーツファーマシストの存在と意義を説明できる。
2. スポーツ薬理学の意義を説明できる。
3. ドーピングコントロールの役割と現状を説明できる。
4. スポーツファーマシストとしての活動に関し討議できる。
5. 積極的に討議に参加し意見を出すことができる。

・講義日程

(矢) 西 104 1-D 講義室

月日	曜日	時限	講座・分野	担当教員	講義内容/到達目標
4/14	火	4	創 剤 学 分 野	杉山 育美 准教授	スポーツファーマシストとは 1. スポーツファーマシストの存在と意義を説明できる。 2. ドーピング及びアンチ・ドーピング活動について説明できる。 3. アンチ・ドーピング活動を行う際の具体的な活動事例を提案できる。

					【グループワーク】【ICT(slido)】 事前学修：過去のドーピング違反を1例調べてくる。 事後学修：講義の中で挙げたポイントをまとめる。
4/21	火	4	北京五輪メダリスト 創 剤 学 分 野	永井 秀昭 氏 杉山 育美 准教授	アスリートが求めるスポーツファーマシストの役割について 1. ドーピングコントロールの役割と現状を説明できる。 2. チームにおけるスポーツファーマシストの役割を説明できる。 3. ドーピング検査法を説明できる。 4. スポーツ現場で汎用される医薬品を列挙することができる。 【グループワーク】【ICT(slido)】 事前学修：これまでの内容についてまとめる。 事後学修：講義の中で挙げたポイントをまとめる。
5/12	火	4	りんどう薬局 創 剤 学 分 野	本田 昭二 薬剤師 杉山 育美 准教授	ドーピングコントロール 1. ドーピングコントロールの役割と現状を説明できる。 2. ドーピング検査の現状を説明できる。 3. アンチ・ドーピング機構について述べるができる。 【ICT(slido)】 事前学修：日本アンチ・ドーピング機構について調べる。 事後学修：教科書 p39～46 を熟読する。講義の中で挙げたポイントまとめる。
6/1	月	4	創 剤 学 分 野	杉山 育美 准教授	スポーツ薬理学 1. スポーツ薬理学の意義を説明できる。 2. 平常時と運動時の薬理作用の違いに関し説明できる。 3. 運動時、注意すべき医薬品を列挙できる。 【グループワーク】【ICT(slido)】 事前学修：薬理学全般に関し復習してくる。 事後学修：講義の中で挙げたポイントをまとめる。
6/10	水	5	創 剤 学 分 野	杉山 育美 准教授	スポーツファーマシストになったきっかけと活動 1. スポーツファーマシストの存在と意義を説明できる。

					2. 薬剤師免許取得後にスポーツファーマシストの資格を取る手順を説明できる。 3. スポーツファーマシストの活動を説明できる。 【グループワーク】【ICT(slide)】 事前学修：教科書 p23～38 を読んでおく。 事後学修：講義の中で挙げたポイントをまとめる。
6/23	火	3	創 剤 学 分 野	杉山 育美 准教授	アスリートへの服薬指導シミュレーション 1. スポーツファーマシストの活動について討議できる。 2. スポーツファーマシストの活動を想定し、競技別に禁止薬物を列挙できる。 3. 処方内容より、競技別に禁止物質が含まれていないかどうかを判断し、疑義照会をするとともに、新たな処方提案ができる。 【グループワーク】【ICT(slide)】【プレゼンテーション】 事前学修：最新のドーピング違反薬物の概略を調べる。 事後学修：他のグループの発表から良い点や疑問点を見つける。

・教科書・参考書等（教：教科書 参：参考書 推：推薦図書）

	書籍名	著者名	発行所	発行年
教	アンチ・ドーピングを通して考える スポーツのフェアとは何かー	（公財）日本アンチ・ドーピング機構（JADA） 監修	（公財）日本アンチ・ドーピング機構	2013

・成績評価方法

講義への参加態度（20%）、グループワーク（30%）、レポート提出（50%）により総合的に評価する。

・特記事項・その他

- 1) 事前学修は、各回において立場の違う観点から講義を行うので、それぞれの立場を理解するよう予習することとし、各回最低 40 分を要する。事後学修は、各回の講義において重要なポイントを明示するので、この点を中心に論理的な復習をするとともにレポートを作成するのに最低 80 分を必要とする。

まとめのプレゼン準備に 90 分の時間を要する。

- 2) レポートの内容は次の講義の最初に紹介し、考えやポイントをシェアするとともに解説する。
グループワークでの成果をもとに行うプレゼンテーション後にフィードバックを実施する。
- 3) 当該科目に関連する実務経験の有無 有
ドーピング検査の実務経験を有する非常勤講師が、専門領域に関する実践的な教育を、実例を交えて行う。